

【小学生の部】 優秀賞

「コロナ禍で気付いた環境問題対策」

練馬区立高松小学校6年 ^{よしもと}吉本 ^{まよ}真世

新型コロナ・ウイルス感染拡大の影響で、経済活動がストップしました。そのために、二酸化炭素の排出が削減したという話を耳にしました。昨年に比べて、ピーク時に17%も削減したという試算も出ています。これは、年に換算すると7～8%削減に相当するそうです。地球温暖化については、これまで多くの方が声を大にして叫び続けてきました。それが、こんな形で好転したことに驚きます。

新聞記事によると、具体的な事例として、「大気汚染が深刻なインドで数十年ぶりにヒマラヤが見えた」とか、「イタリアのベネチアで緑色に濁っていた運河の水が透明になった」という明るい話題も紹介されていました。

しかし、この一年限りの削減では、温暖化は止まることはないと言われていています。なぜなら、7～8%削減したところで、相変わらず膨大な量の二酸化炭素を排出していることに変わりはないからです。つまり、大気中の濃度は少し減速はしても増加し続けるわけで、当然、気温上昇が収まることはないからです。

さらに、今はコロナ危機対応が優先され、多くの方は地球温暖化の危機という問題のことをすっかり忘れてしまっている印象です。

ただ、今回のことで明確になったことがあります。それは、我慢を前提に温暖化対策に取り組むことは限界があるということです。

これまで、僕なりに、暑いのにエアコンを止めるとか、設定温度を上げるとかの努力をしてきました。その結果、汗をだらだら流しながら温暖化のためだから仕方がないというイメージでとらえてきました。でも、今の状態が来年以降もずっと続くことは、たとえ目標を達成できても、誰も望まない社会だということがはっきりしたのです。

そのためには、通常の生活をしていても二酸化炭素が出ない社会に作り変えなくてはいけないと思います。具体的には、化石燃料に頼る社会から、太陽光や風力などで電気を生み出し、バッテリーを上手に活用する社会に変えていくことです。

そして、人々が車や飛行機に乗らなくても社会が回るようになったり、都市の過密化を避けるために地方でも生活できたりして、過剰なエネルギー消費を減らす工夫をすべきです。

「禍を転じて福と為す」という言葉があります。コロナ禍から学んだことを、幸福な将来に向けて活かしていきたいと思います。